

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

②施設・事業所情報

名称：鳩の森愛の詩あすなろ保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：近江屋 希	定員（利用人数）：118名
所在地：〒245-0009 神奈川県横浜市泉区新橋町812-2	
TEL：045-810-3565	
ホームページ：www.hatonomori.jp	

【施設・事業所の概要】

開設年月日 2002年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 ほとのか		
職員数	常勤職員：24名	非常勤職員：17名
専門職員	看護師 1名	
	栄養士 3名	
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)
	保育室7室、事務室、医務室、厨房、予備室、職員休憩室	○鉄筋コンクリート造2階建ての園舎○平屋建ての分園「ちいさなおうち」○斜面を利用した園庭

③理念・基本方針

○保育理念

鳩の森は、子どもたちを真ん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うことを「共育て共育ち」と呼んで、日々の暮らしの原点にしています。なかまといっしょにあそび、思い描いたことを実現していく力、お互いを思いやる心を、人間として大切な根っこと考えます。子どもたちは、平和な幸せな世の中をつくる担い手です。子どもたちのありのままの姿を受け入れ愛し、一人ひとりがかげがえのない存在として成長していくことを保障する保育園でありたいです

○保育の基本方針

「ありのままの自分を愛せる子ども」「思いやりの心を持つ子ども」「自分で考え、行動できる子ども」「粘り強く挑戦する子ども」「しなやかな心と身体をもつ子ども」「なかまの中で自分らしさを発揮できる子ども」を育てます

○保育目標

自分らしさを尊重する中でかけがえのない自分を育む

④施設・事業所の特徴的な取組

○自然と触れ合う

園庭での戸外遊びを多く取り入れるとともに、積極的に園外へ散歩に出かけ、自然の中で身体と心をたくさん動かせるようにしています。

○異年齢とのかかわり

仲間と共に、様々な体験をおし、大人に励まされながら自ら意欲的に学ぶ力を身につけています。

3・4・5歳児は異年齢のグループで過ごす機会が多くあります。年度の初めは年齢別のクラスで過ごし、年度の

後半は食事や午睡などの生活面は4つの保育室で異年齢の4グループで過ごします。年長児は当番活動や乳児の手伝いなどで年下の子どもたちの世話をし、荒馬踊りや太鼓の活動などは、年下の子どもたちのあこがれとなっています。

○平和を伝える、考える

戦争を知らない若い職員を法人研修として広島に送り、その印象を子どもに伝えるなどにより平和への意識を育てることをねらいとしています。保育士は、絵本や歌を通して、平和を慈しむ心を子どもたちに伝えています。

○卒園のうたの取り組み

職員全員で子ども一人一人の特徴をとらえた歌を作り卒園のプレゼントとすることで子どもを見る目を養い保育の振り返りにもつながっています。

○食育の取り組み

季節ならではの、文化的背景のある行事への取り組みと連携し、こいのぼりを模したちらし寿司、七夕と合わせた流しそうめん等などの給食を提供しています。食器は木の器を使っています。

○保護者との連携

父母の会があり、役員会と5つの実行委員会があり、保護者全員がいずれかに参加していて、行事や園庭の環境整備などで連携しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2019年7月1日（契約日）～2020年2月28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（平成26年度）

⑥総評

◆特に評価の高い点

1、子ども主体の保育の実践

園では、子どもたちが遊びを通して、学びを得、自分らしさを発揮できるよう環境構成をしています。保育室や園庭には、子どもが遊びを広げられるような遊具や仕掛けがたくさん用意されていて、子どもたちは自分で遊びを選んで友達と一緒に身体全体を使って楽しみながら、自分達の世界を作り上げています。

異年齢で過ごす機会も多くあり、年上の子どもが年下の子どもをリードしてやり方を教えたり、年下の子どもが年上の子どもにあこがれて、色々なことに挑戦したりする姿があります。

2、子ども一人一人を尊重する保育

保育士は、職員会議や研修などで、理念に沿った保育の実践に向け学習を重ねています。毎日の午睡時の会議では、個々の子どもの姿を共有し、適切に関わっているかを振り返っています。保育士は、日々の保育の中で先入観を持たずにありのままの子どもの姿を受け入れ、子どもの言葉に耳を傾けて子どもができたことを共に喜び、小さな発見を共に楽しみ、子どもと共に生き生きと過ごしています。

3、保護者との連携

園の理念「共育て共育ち」を実践するために保護者との「顔の見える関係作り」に力を入れています。朝夕の送迎時などには、園の職員全員がそれぞれの立場で保護者に声をかけ、信頼関係が築けるように努めています。クラス懇談会や個人面談、保育参加などを通し、保護者が園の取り組みを理解できるようにしています。

4、地域支援と地域交流

園は、あそぼう会、園庭開放、一時保育、育児講座などの子育て支援事業を実施し、地域にその専門性を還元しています。地域のお祭りで子どもや保護者が出し物を披露したり、職員が出店したりし、地域と交流しています。毎月2回の「いきいきあすなろ」で地域の高齢者と5歳児が交流したり、地域の高齢者グループホームを5歳児が訪問するなど、園は地域の施設として根付いています。

◆改善を求められる点

1、職員も参画しての事業計画の策定

園長は、運営法人の重点目標を基に、職員の自己評価や保護者アンケートの結果等を考慮して事業計画を作成しています。ただし、事業計画の策定に職員が参画したり、内容について具体的に職員に説明することはしていません。事業計画の策定に職員が参画することで、職員の運営上の課題への意識を高め、目指す園作りに共に取り組んでいくことが期待されます。

2、記録の整備と共有

日々の取り組みを、保育日誌や個人記録、会議録等に記載しているものの、書式やファイリングの仕方に統一性がないものや、第三者が見ると分かりにくいものがあります。情報を職員皆で共有し、園の取り組みを将来につなげていくためにも、誰が見ても分かりやすい記録に向けた取り組みが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

・評価項目に基づいた自己評価を全職員で取り組んだことで、自分たちの保育を客観的に評価する視点を学びました。何が足りていて、何が不足しているのかが一目瞭然でした。

改善点としてあげていただいた「職員が参画しての事業計画の策定」は、法人としての課題でもあり、姉妹園と共に学びを深めてまいりたいと思います。

(施設長 近江屋 希)

・「より質の向上ができる余地を見つけ前向きな機会にするための第三者評価です」とご説明頂いた通り、この取り組みの中で常勤職員と非常勤職員が普段に増してより一緒に保育を考え合う機会を得たことは、今に続く財産となりました。また、中堅職員がより将来への希望を持てる職場にしたいと考えていたことが、具体的にどこなところから取り組めばよいか、見えてきた気がします。

(副施設長 池田 佳代子)

・一つひとつの評価項目に対して、職員全員で何回も話し合いをしました。そのことで、保育園という組織として何を求められているのか、そのことにどのように応えているのかという現状と、今後の課題に気付くことができました。自分の保育実践を客観的に見る機会になり、今回学んだことを毎日の保育に活かしていきたいと思います。

(主任保育士 中原 有子)

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり